

“2024年11月CHP研究会シンポジウム
「人はなぜ歯科医院へ行くのか？」
～2024年、今だから伝えたい3つのこと～”

諸井英徳

みなさん、こんにちは。私は CHP 研究会を 2001年に立ち上げた諸井英徳といいます。
もう、23年も前のことになるんですね。私も 61歳になりました。創設当時は 38歳だったというのも、我ながら驚きです。まだまだ発展途上だった自分が、とてつもないビジョンを語っていたものだと言います。

さて、武藤代表はじめとする現執行部の皆様、ならびに現会員の皆様のおかげで、CHP研究会がまた新しい扉を開こうとしていることを、いつも感謝の気持ちと、ワクワクするような高揚感を持って拝見しています。本当にありがとうございます。立ち上げに携わった人間として、脈々とコンセプトが引き継がれ、新たな挑戦をされている姿を見せて頂けることに、感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、今回関東CHPの先生方が中心となって、シンポジウムを開催されるにあたり、私のような老体に「設立時の想いを改めて伝えてほしい」「“生きづらさ”が蔓延する現代社会、世代間のギャップが取り沙汰される現代社会だからこそ、CHPの考え方が必要だと思うので、ザ・オリジナルのコンセプトを全ての世代に伝えてほしい」とのリクエストを頂きました。色々考えるとありました、引き受けることにしました。なぜなら、自分の人生が終わりに向かっていることをリアルに感じる年齢になったからです。大切な友人の死に立ち会うことができました。大好きだった芸能人も、この数年の間に沢山、鬼籍に入られました。尊敬していた先生、私の人生に大きな影響を与えてくださった恩師も、向こうの世界に旅立たれました。

肉親の死にも立ち会いました。「死」というものが、空想の世界の出来事だった 20代や30代とはメンタリティに明確な違いが生まれてきました。「伝えなければならない」「伝えるなら、今しかない。」という気持ちが芽生えているのは、火を見るよりも明らかです。

私は、本当に沢山の素晴らしい先輩方から「生きる上での大切なメッセージ」「魂のこもったメッセージ」を 10代、20代、30代の多感な時期に受け取らせて頂きました。それを伝えたのが初期の CHP 研究会だったと、今になって気付きました。だから、私も今、それらのメッセージをバトンタッチする必要があると思っています。

実は、当たり前のことばかりです。ご存知のことばかりです。しかし、それを琴線に触れる形で、あなたの固有周波数と共鳴するような形で受け取ることができるかどうか、大事なのだと思います。そして、誰と一緒にその場に居ることができるか、それも貴方の今後を決める大事な要素となることでしょう。是非とも、大切な人と一緒に、ご参加ください。今までにご覧になった最上の映画と同じ位の心の揺さぶりを感じて会場を後にして頂けると幸いです。

あとは、私が11月17日の本番まで健康で生きていることが必要なことです。「明日の命が絶対に保証されている」なんて幻想です。だから、“今”を生きたことが大切なんです。

丁度半年後に皆様とお目にかかれること、そして私にとっての「生きるためのエネルギー」となったストーリーを皆様にお伝えする、バトンタッチする役目を果たしたいと願っています。何も持たずに、手ぶらで、リラックスしてお越しください。皆様とお目にかかれること、心より楽しみにしております。

諸井 英徳



第20回CHP研究会 シンポジウムin東京

開催日 2024年11月17日(日)

心を通わせるコミュニケーションが、職場や働き方を変える！！

講師：福島正則 講師：諸井英徳

お申込み/お問合せ mail : info@chp.ne.jp

CHP 研究会
Clinical Health Promotion

Create Happy

お問合せ先 : info@chp.ne.jp